

平成 27 年度

新しい共通教育について語り合う会

「フクトーク」報告書

主催 福山大学 大学教育センター（全学共通教育部門）

●趣旨

学生が国際社会の中で社会人としてのスキルを身に付け、教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培うために共通教育の役割は大きい。そのため、共通教育の今後の充実が望まれる。そこで、魅力的な授業を一緒に考え企画することを学生に呼びかけ、学習の主体者である学生の参加による企画提案型の意見交換会を開催する。

これを通じて、共通教育での学び方の工夫、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなど、魅力的な授業方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育の充実に資する。

●日 時： 平成 27 年 12 月 9 日（水）、16 時 20 分～18 時

●場 所： 大学会館 3F、ICT 教室「CLAFT」

●テーマ： 教養ゼミであんなこと、こんなこと
—教養ゼミの可能性—

●参加学生

経済学部 4 名、人間文化学部 8 名、工学部 6 名、生命工学部 7 名、薬学部 4 名

計 29 名（うち、学部学科選出 28 名、公募 1 名）

計 5 グループ

●プログラム

16:20 開会の挨拶（大学教育センター長）

16:25 全体説明（プロダクト：『新しい授業の提案』）

16:30 フリートーク

16:45 SGD 開始

17:30 グループ発表

17:45 最優秀賞の選考

17:50 閉会の挨拶（大学教育センター長）

17:55 集合記念撮影・アンケートの実施

18:00 解散

●スタッフ

小野准教授、地主准教授、鶴崎准教授、日暮助手（五十音順）

●要旨

共通教育について学生同士が話し合い、学生たち自身が新しい授業を企画提案することを目的とした「フクトーク」も今年で4回となった。今回のテーマは、過去のフクトーク参加学生のアンケートに、今後実施してほしいテーマとしてあった「教養ゼミ」に決定した。テーマ決定後には、参加者募集に向けて過去3回の内容などを載せた「フクトーク」のホームページも開設した。今回初の試みとして、過去3回の「フクトーク」にすべて参加している4年生の学生が司会を担当した。「フクトーク」参加学生の募集方法は、学内公募と学部学科からの選出の2段階となった。当日は5グループ分かれてSGDを行った。会場は、大学会館ICT教室「CLAFT」を利用した。

当日の活動の進行については、まず、大学教育センター長による開会の挨拶として趣旨説明を行ったあと、司会による全体説明としてSGDの意味、プロダクト、ルール、役割の説明を行った。続いてSGDに入る前に、フリートークの時間を設け、自己紹介を行うとともに、SGDを行うための司会進行係、記録係、発表者をグループ内で決めた。そして、教養ゼミは、大学での学修を円滑にする初年次教育として位置づけられており、大学での学修スキルを習得し、自己表現力やコミュニケーション力を養うことを目標としていることを確認し、この目標を実現するための魅力的な授業内容をプロダクトとすることを告知した。

SGDは、記録係が各グループに割り当てられた3面式のホワイトボードに議論のメモを行い、それをもとにプロダクトを作成した。SGDおよびプロダクトのまとめ作業合わせて45分という限られた時間であったが、各グループとも活発に議論がなされ、プロダクトのタイトル、授業内容、セールスポイントがホワイトボードにまとめられた。グループ発表では、各グループの発表者がプロダクトの内容について説明を行った。5つのグループのプロダクトのタイトルを以下に示す。

- (ア) We、Can ぷ！
- (イ) 学内交流
- (ウ) 学科内で他人と交流しよう！
- (エ) 他学部と協力して商品開発
- (オ) フリーダムゼミ

それぞれの授業内容は、(ア)は自分たちで計画をたて、キャンプに行く、(イ)は他学部他学科と合同のグループディスカッションや他学年に自分の所属学科について教えてもらう、(ウ)はフォークダンスをする、(エ)は学部ごとの特徴をいかした商品開発を他学部と協力して行う、(オ)は先輩が来て大学の生活について教えてもらう、レクリエーションを主とした教室外での活動、前半に自己紹介、後半に所属学科の専門について学ぶ、というものであった。実際の教養ゼミはそれぞれの学部学科で閉じていることがほとんどであるが、全体的に他学部他学科や他学年と交流する

提案が多くあったことから、総合大学の強みを生かした取り組み等を望んでいる学生が少ないのかもしれないという印象を受けた。なお、学生の拍手による選考の結果、(ア) We、Can ぷ! が最優秀プロダクトに選ばれたが、アンケートの実施してほしいプロダクトにあるように、(エ) 他学部と協力して商品開発にも高評価であった。

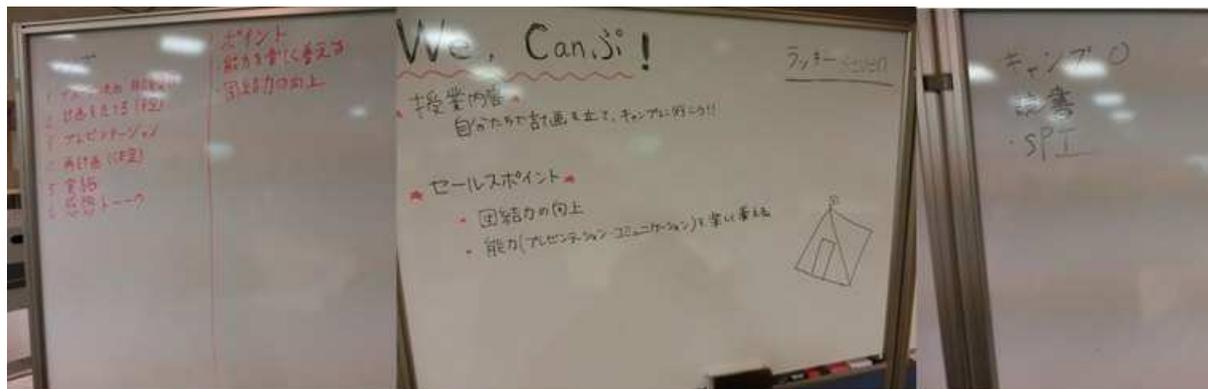
アンケート調査の結果から、参加学生のほとんどが「フクトーク」での話し合いが有意義であった、SGD への参加も良好であった、グループ人数が適切であった、提案された授業内容の中で実現を望んでいるものがある、学生の意見を取り入れた新しい授業を生み出していく仕組みを求めている、次回参加への可能性がある、といった点に賛意を示していたことが分かる。

また、「フクトーク」開催時期・時間については、過去 2 回は後期定期試験が終了した 2 月中旬、過去 1 回は土曜日の午後に行っていたが、今回初の試みとして、平日の 5 時限に行った。これについては、過去 3 回と比べ時間的な制約があったものの、66%の学生が適切であったと回答した。一方で、ディスカッションの時間がもう少し長い方が良かったという回答が 41%あるので、全体時間・プログラムについて検討する必要があるかもしれない。

最後に、今回も関係の多数の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼を申し上げたい。特に、依頼を快く引き受けてくれ、事前の打ち合わせにも熱心に取り組み、当日も堂々とした司会ぶりを発揮してくれた 4 年生の Y 君に心より感謝申し上げたい。

●プロダクト No.1

タイトル : We、Can ぷ!



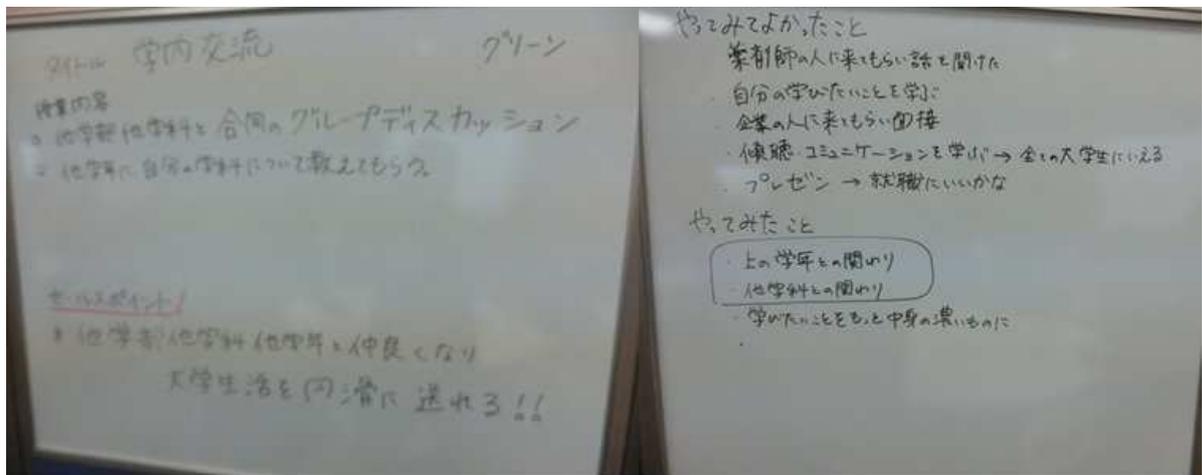
メモ(左)

まとめ

メモ(右)

●プロダクト No.2

タイトル : 学内交流

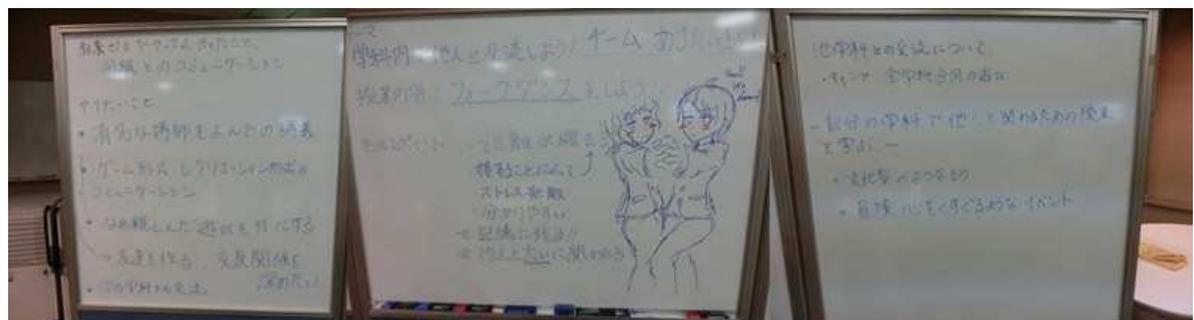


まとめ

メモ(右)

●プロダクト No.3

タイトル : 学科内で他人と交流しよう!



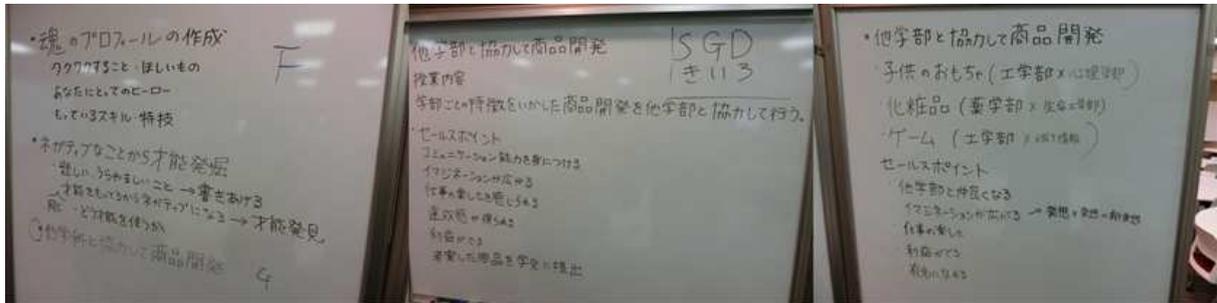
メモ(左)

まとめ

メモ(右)

●プロダクト No.4

タイトル : 他学部と協力して商品開発



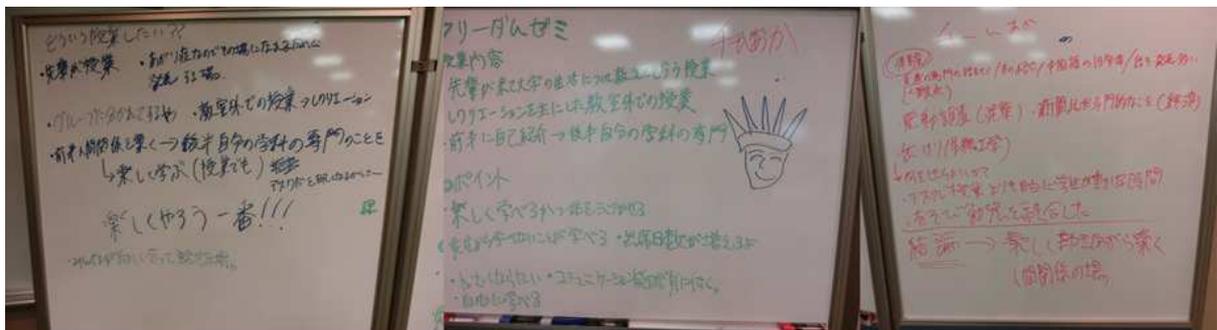
メモ(左)

まとめ

メモ(右)

●プロダクト No.5

タイトル : フリーダムゼミ



メモ(左)

まとめ

メモ(右)



開会の挨拶



全体説明



SGD (スモール・グループ・ディスカッション)



成果発表

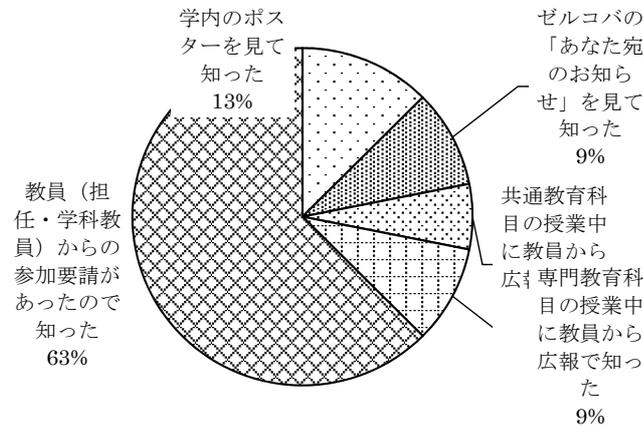


総評

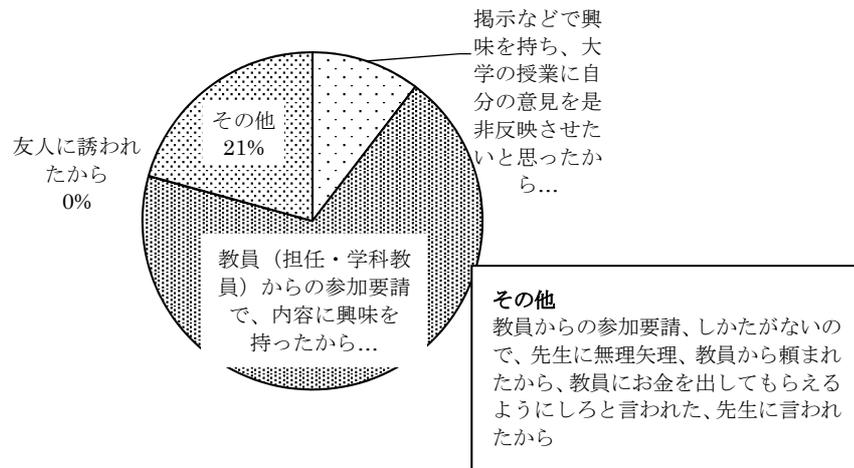
フクトーク参加者 アンケート集計結果

フクトーク参加者数 29名、 アンケート記入者数 29名

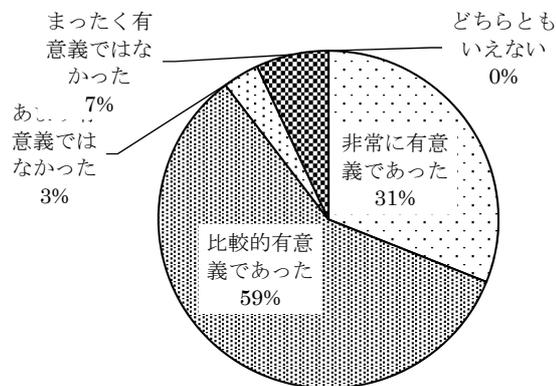
① フクトークをどのようにして知りましたか。



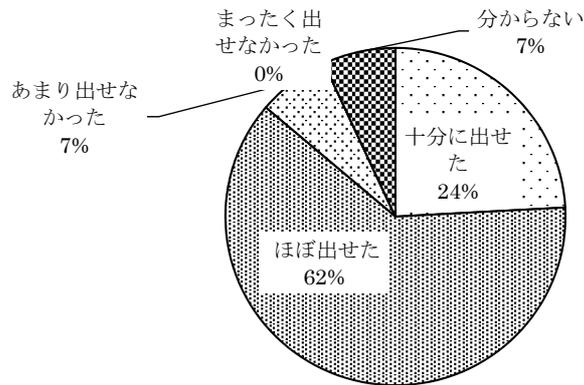
② フクトークへの参加の経緯を教えてください。



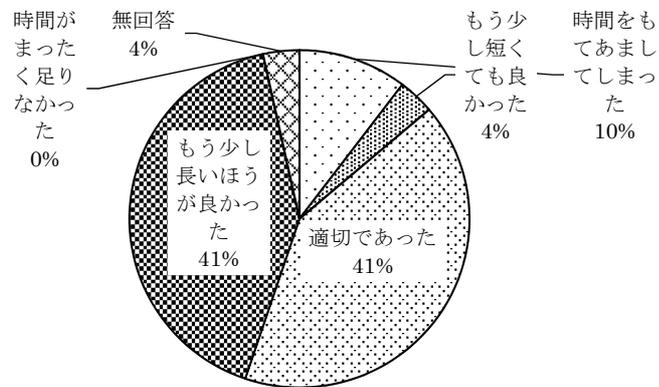
③ あなたにとって、フクトークでの話し合いは有意義でしたか。



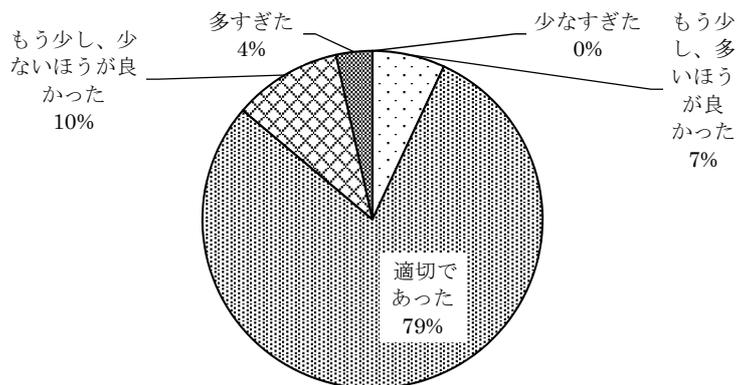
④ グループディスカッションでは、自分の意見を十分に出せましたか。



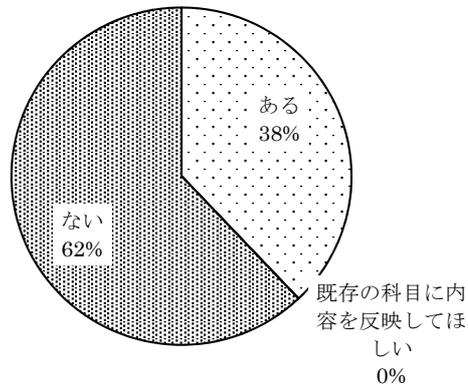
⑤ ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。



⑥ グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。

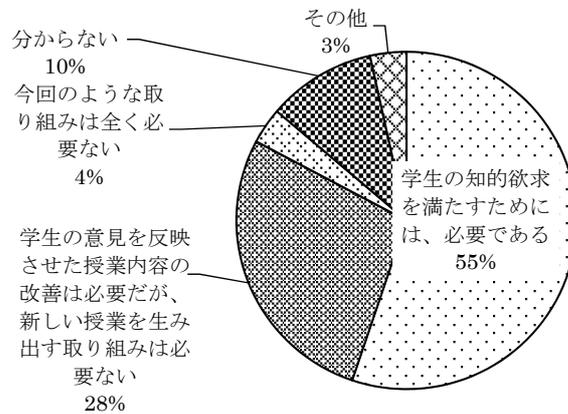


⑦ 今回のフクトークで提案された科目の中では是非実現してほしい科目はありますか。

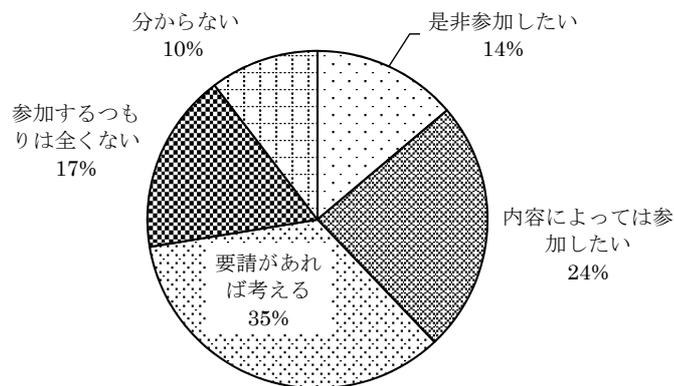


「ある」と答えた学生の科目名など	人数
We can ぶ	6
他学部と協力しての商品開発	4
フクトーク	1
教養ゼミ	1
楽しく学ぶ	1

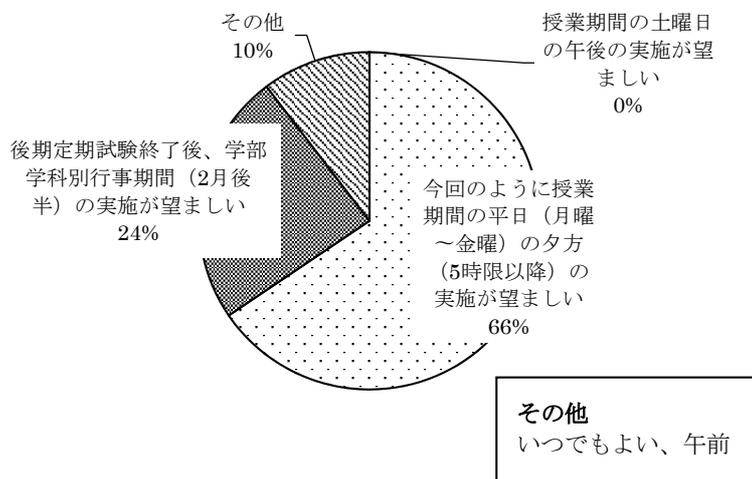
⑧ 今回、教養ゼミについて議論をしましたが、学生の意見を取り入れた新しい授業を生み出していく取り組みは、今後も必要と思いますか？



⑨ 次回のフクトークに参加したいと思いますか。



⑩ フクトークの開催時期、時間についての考えを教えてください。



⑪ フクトークに参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど自由に記載してください。

たのしかったです。
 様々な学部の人と話せて楽しかった。
 最後のきめ方がざつ
 初めて会う人と話す練習になってよかったと思う。
 否定させてください！！
 悪くなかった。
 いろんな人がいて Happy だった
 Thank u so much !
 特になし